

2025 年度英国現代奴隷法ステートメント（仮訳）

INPEX（以下、当社）は、英国現代奴隷法第 54 条第 1 項の定めに基づき、当社グループ及びそのサプライチェーンにおける奴隷労働や人身取引を防止するための取組みについて、以下のとおり開示します。

1. 当社の事業概要

当社グループは、エネルギーの開発・生産・供給を、持続可能な形で実現することを通じて、より豊かな社会づくりに貢献するとの経営理念に基づき、石油、天然ガスその他の鉱物資源の調査、探鉱、開発、生産及び販売、再生可能エネルギーの調査、開発、生産及び販売、それら事業への投融資及び付帯関連する事業を主たる業務としています。また、長期戦略と中期経営計画（INPEX Vision 2035）を策定し、「現実的な移行期の燃料」としての天然ガスの供給力強化を軸に、相乗効果／補完効果が期待できる低炭素分野や電力関連の新たな取組みを強化し、収益基盤を拡大すると同時に 2050 年ネットゼロに向けて前進します。

当社グループは、世界約 20 か国でプロジェクトを推進しており、グループ従業員数は 3,000 名を超えています。

・ INPEX Vision 2035

(https://www.inpex.com/assets/documents/company/inpex_vision_2035.pdf)

英国においては、当社子会社において、欧州の電力開発事業や新規案件発掘の支援、石油ガス産業関連や再生可能エネルギーを含む新事業の情報収集等を実施しています。

当社コアエリアの一つである豪州においては、2019 年 1 月に豪州現代奴隷法（Modern Slavery Act 2018）が施行されたことに伴い、同法に則り、当社豪州事業会社によるステートメントを開示しています。

・ INPEX Australia ホームページ

(<https://www.inpex.com.au/news-and-updates/publications/>)

石油・天然ガス鉱区を保有するノルウェーにおいては、2022 年 7 月に透明性法（Transparency Act）が施行されたことに伴い、同法に則り、当社ノルウェー事業会社によるレポートを開示しています。

・ INPEX Idemitsu Norge ホームページ

(<https://inpex-idemitsu.no/sustainability/the-norwegian-transparency-act/>)

2. 奴隷労働及び人身取引防止に関する方針、体制等

グループに適用する方針

当社は、INPEX グループ人権方針（以下、人権方針）にて、当社グループの人権尊重の姿勢を包括的に明示しています。また、サステナビリティへの取組みを推進するための指針であるサステナビリティ憲章を制定し、その憲章のもと、全ての役員・従業員が守るべき行動基本原則及び行動規範において、人権の尊重を規定しています。

- ・ 人権方針 (https://www.inpex.com/company/policies.html#anc_04)
- ・ サステナビリティ憲章 (https://www.inpex.com/company/philosophy.html#anc_03)
- ・ 行動基本原則及び行動規範
(https://www.inpex.com/company/philosophy.html#anc_04)

INPEX バリュー

当社グループでは、役員・従業員が一体となって働くための共通の基盤として、5つの項目（安全第一、誠実、多様性、創意工夫、協働）からなる INPEX バリューを定めています。

- ・ INPEX バリュー (https://www.inpex.com/company/philosophy.html#anc_06)

国際規範の尊重と外部イニシアティブへの参加

当社グループは、国際人権章典や ILO 国際労働基準、国連のビジネスと人権に関する指導原則等の人権に関する国際規範を支持しているほか、2011年より国連グローバル・コンパクト、2013年より Ipieca に参加し、人権の尊重に努めています。

体制

当社グループでは、サステナビリティ憲章、行動基本原則及び行動規範、人権方針、その他各種方針において、全ての役員及び従業員に対し法令遵守はもちろんのこと、社会規範を尊重し、高い倫理観を持った行動をするよう義務付けています。これらの方針等に基づいた企業倫理・企業行動を徹底するため、取締役であるコンプライアンス担当役員を委員長として、事案・事業の性質や客観性・多様性確保の観点を踏まえて起用した委員などから構成されるコンプライアンス委員会を定期的及び随時開催しています。また、サステナビリティに関する基本方針、人権を含む同推進に関する重要事項等を審議する目的で、代表取締役社長を委員長とするサステナビリティ推進委員会も定期的及び随時開催しています。

本ステートメントは当社取締役会の承認を得ており、また、サステナビリティ推進委員会副委員長である取締役副社長執行役員の滝本俊明により署名されています。

3. 奴隷労働及び人身取引防止に関する取組み

事業リスクの審査に当たっての人権への配慮

当社グループのプロジェクト推進に際しては、国際金融公社（IFC）パフォーマンススタンダードを自主基準に採用し、事業活動が操業地域に与え得る環境・社会影響について労働課題及び人権側面を含めて調査を実施し、リスクを特定した上で回避・緩和・モニタリングを行うなど、適切に対処しています。

- ・ 人権への取組み (<https://www.inpex.com/sustainability/social/human-rights/policy/>)

サプライチェーンマネジメント

当社グループはサプライヤーやジョイントベンチャーパートナーなどの様々なステークホルダーと共に事業活動を推進しています。

当社グループでは、日本、豪州、インドネシア、ノルウェー、マレーシアでオペレータープロジェクトを展開しています。オペレータープロジェクト遂行にあたっては、資機材、役務を供給するサプライチェーンマネジメントが必要となります。約 2,100 社のサプライヤーを通じ、年間で約 2,900 億円に及ぶ調達をサプライチェーン上のリスクを管理しながら適切に行っています。

調達活動においては、調達倫理に係る社内規程に従い、関連する法律、社会規範及び当社サステナビリティ憲章を遵守するように努めています。

サプライヤーに対しては、調達契約等において当社人権方針の内容を尊重することを求めています。また、この取組みをさらに強化するために、強制労働の防止を含めた CSR（Corporate Social Responsibility）事項の遵守をサプライヤーに対して要請する「サプライヤー行動規範」を制定しています。更に、サプライヤー各社での同行動規範の遵守をサポートし、実効性の向上に寄与するため、解説及び具体的施策を記した「サプライヤー行動規範ガイドライン」も発行しています。

また、当社では、発注額上位のサプライヤーを中心に CSR 自己評価アンケートを利用したアセスメントを毎年実施しています。2025 年には人権デュー・デリジェンス結果を踏まえて、当社の特定した顕著なリスクについての調査範囲を拡大するため、大幅に内容を改定し、人権・労働、労働安全衛生、調達慣行、地域社会、環境、コンプライアンス等の質問を設け、サプライヤー行動規範の遵守事項を超えた環境、社会、ガバナンス評価を実施しました。さらに、2024年に引き続き、当社主導の第三者監査を、CSR 自己評価アンケートを用いて実施しました。加えて、定期的に、外部コンサルタントの基準（ILO 条約、SA8000 等の国際基準を元に作成）を利用し、環境、社会（労働、賃金と労働時間、安全衛生）、管理システムの観点から工場や建設現場等での第三者による実地監査を実施しています。

なお、2023年よりサプライヤーフォーラムを実施しており、当社の実施するCSR自己評価アンケート及びCSR監査について説明及び協力の依頼を行いました。

啓発活動及び内部通報制度

当社グループでは、全ての役員・従業員が守るべき人権方針、行動基本原則及び行動規範において、人権の尊重を規定しており、社内のイントラネット等を通じ役員・従業員に周知しています。また、当社の一人一人がコンプライアンスの意識を高め、ハラスメントや不正が発生するリスクを低減し、コンプライアンス違反の発生を抑止することを目的に、各従業員を対象として、ハラスメントや差別を含む研修を定期的実施しています。2025年には、外部講師の支援を得て、組織内コミュニケーションの改善を目的とし、階層・組織の垣根を超えた参加者間での意見交換やグループディスカッション、ケーススタディを含むコンプライアンス研修を実施しました。さらに、社内アンケートの実施やニュースレターの発行等、人権を含めたコンプライアンス分野の社内啓発活動を積極的に推進しています。さらに、内部通報制度

(<https://www.inpex.com/sustainability/governance/compliance/>) に基づく社内外通報窓口で構成するヘルプライン及びINPEXグローバルホットライン(*)を設置し、当社グループの役員・従業員を対象に運用しており、重大なコンプライアンス違反がある場合には、適切に対処し、年次サステナビリティレポートで開示することとしています。また、当社グループにおける人権に関するパフォーマンスデータを毎年サステナビリティレポートで開示しています。

(*) 2020年6月、ヘルプラインに加えて開設。経営上特にリスクが高い分野である(1)贈収賄・汚職、(2)独占禁止法(競争法)違反、(3)不正な会計処理の早期探知・是正を図る等を目的として設置。

4. 今後の取組み

当社グループは、人権に関する継続的な社内研修やサプライチェーン全体における奴隷労働及び人身取引の防止を含む人権マネジメント強化に努めるとともに、2024年の人権デュー・デリジェンスにより確認された複数の人権課題につき、引き続きモニタリングを実施します。潜在的なリスクが考えられる人権課題については、防止策の強化に取り組めます。ステークホルダーの健康・安全の確保を最優先にして、操業地域社会への社会的責任を着実に果たし、持続可能な社会づくりに貢献していきます。

2026年6月22日

署名者 滝本俊明

役職名 取締役 副社長執行役員

株式会社 INPEX